

市民福祉委員会会議録

1. 開催年月日

令和元年12月11日

開会 9時58分

閉会 14時 7分

2. 開催場所

委員会室

3. 出席委員名

簀戸利昭

柳原英子

西村慎次郎

惣台己吉

藤原浩司

三輪順治

大滝文則

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 議長

坊野公治

(2) 説明員

副市長

猪原慎太郎

市民生活部長

佐藤和也

健康福祉部長

山田正人

病院事務部長

田平雅裕

市民生活部次長

井口勝志

健康福祉部次長

沖津幸弘

病院事務次長

一安直人

健康福祉部参与

和田広志

子育て支援課長

岡崎祐一

協働推進課長

川上益史

環境課長

谷みち子

健康福祉部参与

三宅早苗

健康福祉部参事

原田恒司

甲南保育園長

阪谷佳美

芳井保育園長

三宅弘美

偕楽園長

竹井博範

芳井支所長

岡田光雄

美星支所長

川上邦和

福祉課長補佐

片山恭一

戸籍住民係長

岩本陽子

総務課長補佐

伊藤圭史

(3) 事務局職員

事務局長

宮良人

事務局次長

藤原靖和

主 任

多賀大祐

6. 傍聴者

- | | |
|---------|---------------------|
| (1) 議 員 | 妹尾文彦、多賀信祥、三宅文雄、佐藤 豊 |
| (2) 一 般 | 0 名 |
| (3) 報 道 | 1 名 |

7. 発言の概要

委員長（簀戸利昭君） それでは、皆さんおはようございます。

少々早いようですが、皆さんおそろいようですので、ただいまから市民福祉委員会を開会いたします。

まず初めに、副市長のごあいさつをお願いいたします。

副市長（猪原慎太郎君） 皆さんおはようございます。

12月に入りまして、めっきり朝晩が冷え込んでまいりました。本格的な冬を迎えようとしております。日中の温度差が相当ございますので、くれぐれもお体のほうをご自愛いただきたいと思っております。

また、皆さんご承知のとおり、インフルエンザが大変流行をしております。岡山県では、11月28日にインフルエンザ注意報を発令をしまして、注意喚起を行っているところでございます。本市の状況でございますけれども、井原医師会のホームページによりますと、ことしの9月から11月までの3カ月間の患者数は107人ということでございます。ちなみに、昨年同時期は9人、一昨年は35人といった実績からしましても、ことしは相当流行の時期が早まっていると言えらるだろうと思っております。手洗いやマスク着用など予防対策に心がけていただきたいと思いますと思っております。

本日は、市民福祉委員会を開催をいただきまして、皆様方には何かとご多用な中をお繰り合わせご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

この委員会に付託されております案件でございますが、条例案件が2件、事件案件が1件、その他所管事務調査の調査事項が3件ということでございます。皆様方には、慎重にご審議をいただきまして、また適切なご決定を賜りたいと思っております。

なお、お手元に本定例会報告事項をお配りしております。皆様方には、後ほどお目通しのほうよろしく願いいたします。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

〈議長あいさつ〉

〈議案第 88 号 井原市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例について〉

委員（三輪順治君） 基礎的な質問で申しわけないんですけども、まずこの条例の改正条例の経過措置を見ますと、「し尿汲取券の交付を受けた者は、当分の間、これを返還して当該し尿汲取券に相当する金額の還付を受けることができる」と、こうなってます。これは、美星地域にお住まいの市民の方だろうと思うんですけども、幾ら発行されたかわかりませんが、いつまでに、どこへ行けば返金されるのでしょうか。

環境課長（谷みち子君） 交付されたし尿汲取券の返還還付ですが、それにつきましては、令和 2 年 3 月末までに使い切れなかったし尿汲取券は、救済措置として令和 2 年 4 月から還付の措置を行いたいと考えております。市役所環境課、芳井、美星の各支所で、使い切れなかったし尿汲取券と還付請求書をお持ちいただき、それに見合う額の還付を考えております。

委員（三輪順治君） その際、ご事情があつてなかなか持っていられない方がいると思いますが、ご配慮をお願いしたいと思います。

それから、期限についてですが、いつまでに行けばいいんですか。使い切れてないし尿汲取券は、4 月 1 日から還付が始まるということですけども、いわゆる時効というんですか、忘れていたということで、し尿汲取券がただの紙になるのはいつですか。

環境課長（谷みち子君） 経過措置の当分の間という期間ですけども、前回の消費税改定の際には、し尿汲取券の引きかえを 1 年 2 カ月かけて行った経緯がございます。なので、1 年から 2 年ぐらいかかるかなと思っておりますが、早目の還付請求をするように広報をしていきたいと考えております。

委員（三輪順治君） 余りレアなケースは考えたくないんですが、たまたまとまって買ったし尿汲取券をどこかに置かれることは日常茶飯事で、特に単身世帯とか高齢世帯では置いたとこすら忘れているということもあつて、例えば 3 年後にぽつとし尿汲取券が出てきたと。おお、3,000 円分あつた、5,000 円分あつた、これはかえてくれるんだったなあと。こういうふうなことがあつた場合は、今の説明では法的な時効期間は言われなかったんですが、こういった性格のものは、市の制度が変わったことに伴って当然起きるわけがございますから、早くはわかるんですから、市民の方にも連絡しないといけないだろうし。しかし、行かれない人もいらっしゃる。ひょんなどころへ置かれている場合もある。そのような中で、もうこれ以降はだめですよというのをかなりきちっと言わないと、手続きする気に

なっていない場合があるんで、市の見解として、そこから先は知りませんよというのはいつですか。

環境課長（谷みち子君） くみ取り世帯に関しましては、名簿を持っておりますので、まだ還付に來られてない方には個別に連絡をとり、対応していきたいと考えております。

委員（三輪順治君） 連絡はありがたいことと思います。し尿汲取券をお買いになった金額、それから残存、いわゆる使っていない券の管理をまだされてないかわかりませんが、し尿汲取券を持っていられない方が中にはいらっしゃると思います。要望なんですけど、できればそういうときには市の方とかほかの方が何かのついでにし尿汲取券をもらって帰ってきて、何かの形で現金をお返しするというのを、これは具体論はお任せしますので、よろしくお願いいたします。

それから次、このたびの改正は本会議で、あるいは議会説明会のときに、美星地域にいらっしゃる市民の方々の利便性の向上ということで、従来業務委託したものが許可制になるということで条例を調べたら、第5条の一般廃棄物の処理手数料にかかる別表第1第4項に、「美星町を除く区域」が、し尿が「10リットルにつき97円」。それから第5項に、「美星町の区域」の方は「10リットルにつき105円。手数料はすべて前納とし、し尿汲取券と引換えとする」とある。この2つを削るというこの条例改正なんです。削ることによって、許可制になれば、こういう手数料についてはその許可の中で行くんでしょけども、住民サービスの向上ないしは利便性の向上という観点から、単価というのは許可制になったとしても、例えば10リットル当たり何円というのは誰が決めてどのようにされるんですか。許可条件の中へ入れられるんですか。

それと、美星町はこれによって今より安くなるんですか、高くなる見通しなんですか、それも含めて教えてください。

環境課長（谷みち子君） くみ取り料金につきましては、市内全域が許可制になることによりまして条例から落とすわけですが、多分に公共的要素を有しておりまして、市の審議会等で審議いただいた料金を許可業者に投げかけ、急激に利用料金が変わることがないように努めていきたいと考えております。

美星地域の料金につきましては、審議会で審議いただいた上で今度許可になる業者にその金額を投げかけて決定していただくようになるかと考えております。

委員（三輪順治君） 質問しないでよかったんですけど、審議会の議論をもとに出た基礎的な金額をもとに、最終的な判断は市のほうでされますよね。審議会の答申というのは、基本的には最大限尊重されると思いますが、その審議会がまだ開かれてなくて、今後開催するということですね。この条例を決めた後、審議会を開いて、現行状況を基本にされる

ということですが、間違っても現行より料金が高くなるような、あるいは手間暇がかかるようなことにはならないような、スムーズな許可制への移行をお願いしたいと思います。

本来、廃棄物は全て市町村が責任を持って処理するというのが原則ですから直営が基本だと思うんだけど、今回、すべて許可制になるということで、その中での料金設定というのは、非常に目が届きにくくなる可能性もあるので、審議会への諮問であれ、あるいは日常の管理であれ、十分議論を尽くしてやっていただければというふうに思います。これは、要望しておきます。お願いします。

委員（藤原浩司君） それこそ、今までが委託事業だったわけなんですけど、許可制になった要因と、それから今後許可制になるのであれば、ここから先は申請をされる業者が自由競争のような形になるんだとは思いますが、どっちにしても合特法等がありまして、難しい問題なんで、現状の形で、今携わってる方が許可の申請を多分されるとは思うんですけど、ここは委員会の協議の場ですから名前を出しますけど、美星ですごく市民の方とかかわってやられている株式会社三美産業っていうのが、高梁市の川上町の方がされているわけですけど、そこが要は申請を出されるのか、井原の業者2社が全体を見るのか、どういう形なのかというところ、この3点ほど教えてください。

環境課長（谷みち子君） 現在ですけれども、株式会社三美産業に関しましては、許可を与えた上で美星地域のし尿に関する委託をお願いしております。市内全域が許可になるわけですけれども、今の体制を引き継いで、美星地域は株式会社三美産業にお願いするというふうに考えております。許可を出すときに地区の条件をつけて、美星地域は株式会社三美産業、井原、芳井地域に関しましては他の許可業者2社を考えております。

美星地域を委託から許可にした要因ですけれども、美星地域の場合は委託なので、し尿くみ取り手数料を市に納入していただかなければいけないということで、くみ取り券方式としております。し尿汲取券を事前に買って、くみ取り料に見合うだけのし尿汲取券を委託業者に渡すというような方式になっておりまして、美星地域の方からはわざわざ限られた取扱所、町内に5カ所ありますが、地域のいろいろなところにあるわけではなくて、地域内でも端のほうにいらっしゃる方はなかなか買いに行かれないというようなことも言われております。そういった限られた取扱所で事前に購入して、足りなかったら後で送ったりしないといけないということもあって、事前に多目のし尿汲取券を購入しないといけないというような不都合があるということで、今回委託から許可に変えるようになった次第です。

委員（藤原浩司君） そこは、大体私も認識はしているんですけど、許可制と委託で美星地域の方は買いに行かなくてはならないという利便性というのは、考え方によればどうにでも考えられることであって、もともと美星地域が委託制で、そのような形をとっていたこと

自体がおかしいことであって、美星地域は10リットル単位で区切りがあって、例えば小さい数字で言いますと101リットルでも110リットル分の券を切らなくちゃならなかったという。

それも含めても、美星地域の方は今度はよくなると思うんですけど、12年ほど前に私が本会議で市内業者の、●●●●ですけど、それこそ業者が市民から多額のお金を取っていたということであつたし上げましたよね。これを一番私は懸念しているんです。というのが、自由にやられるんですけど、例えば車を置くところが平地であるとか下りであるとか上りであるとかで、必ずメーターがきちっとついてないもんですから、パイプの中に浮きがあつて、その浮きで大体のメーターの数字を出すだけのことであつて、大体18リットルが基本になつてゐるわけなんですけど、そういったことで、井原地域の方でも、例えば105リットルであるとしても、要はお金は18リットル単位で取られるわけです。そのマイナス分というのはお客さんの負担になるんですけど、400リットルなら400リットル、450リットルなら450リットルといつて、何人槽ということで規格的に大体タンクって決まつてゐるんですよ。それなのにもかかわらず、ことはすごく多かつたな、少なかつたなということが発生しますし、美星地域の中ではそういうタンクでも昔の旧式のくみ取り用のタンクをされているところとかは、結構数量がアバウトなんで、許可制になることで、例えばし尿くみ取りに行かれた方が余分にお金を取つたとか、逆のことを言えば、少なく計算してしまったとかということもあるとは思いますが、井原、芳井地域の管理は環境課でされてゐるんですけど、同じように美星地域もきっちりやっていたかないと、市民の方から余分なお金を取るということ自体は泥棒なんで。

実際、10年前のときも私は弁護士に相談しまして、余分にとつたということとははっきりと言って、これは業務上の過失なんで、本当言うと弁償しないといけなかつたんです、でもそこまで私は求めてなかつたんで。ぜひとも、そこは美星地域の方にも井原、芳井地域と同じような形で、利便性も、それから料金的なこときちんと図つてやっていただくようお願いをしたいと思ひます。

許可制と委託になつて、結局許可制ということは、許可を求める者がいれば、誰でも許可を受けるための申請ができるわけですけど、それを許可するかしないかは、これも行政の判断なんですけど、許可制になつても相変わらず今の3社の業者は何十年も変わらないんで、この辺は自由化の措置を図つていただくことと、車を使って運搬しますので、でき得ることならば、営業プレートをつけていただいて、運行管理をつけたような形でし尿くみ取りをやっていただくことをお願いしたいんですが、その件についてはどのように思ひられますか。

市民生活部長（佐藤和也君） 藤原委員からご提案いただいた件でございますけども、ま

ず井原、芳井地域と美星地域との取り扱いが今度どちらも許可制になるということで、利用者の方にとって不公平感がないように許可権者として指導はしてまいりたいと思っております。

それから、営業プレート等の件でございますけども、法令に照らし合わせまして、適正な対応となりますように努めてまいりたいと思っております。

委員（藤原浩司君） 前向きなお考えですが、難しいことですから何年もかかるとは思いますが、ぜひともよろしくお願いします。

というのが、し尿くみ取りにしても、それから普通のごみを取るパッカー車にしても、すぐく町の中を飛ばす、危ないような状況が多々あります。環境課長はご存じだと思うんですけど、そのたびに電話をかけて、どこの会社のどの車はこういう運転をしていたと、よく指導してくださいよと。

それは、何で言うかということ、市民の方、それから通学路を通る方が多いので、その安全面からいっても、し尿くみ取りであろうが何であろうが、物を運ぶという事業は営業プレートが必要なものなんです。他地域になれば、直営のところは営業プレートではないですけど、福山市でも、県内でも岡山市は営業プレートになっております。

営業プレートをつけるということは、運行に対しての厳しいくくりをきちっとする管理者がつくということです。その管理者がつけば、何キロのスピードで走行して、きょう一日何キロの距離を走行したというような管理までを全てやります。それから、整備、点検云々かんぬんもすべて出発前にやり、帰ったときの点検整備までやっていくというような形ですべて管理をしていきます。そういうことになれば、車が古くなって、これはもうだめだよというような形になれば、新しくしていくのが業者であって、古い車をいつまでも新車と同じように使っているというような中で、ふぐあいもなくなってくるので、先ほど部長のほうから法令に照らし合わせて前向きにというようなご答弁があったんで、ぜひともそのあたりも鑑みて、皆さんが安全・安心に、そして気持ちよくし尿くみ取りをしていただけますように、よろしくお願いいたします。

委員（大滝文則君） 先ほど三輪委員のほうから話が出ました、当分の間というのを1年から2年というふうに言われましたけども、法的な請求有効期限というのがあるのかないのか、ある場合は何年とかというのがありましたら、お示しいただきたいと思います。

環境課長（谷みち子君） 法的な期限ということですが、こちらに関しては聞いておりますが、対応をしていきたいと考えています。先ほど、1年から2年ぐらいを想定しているということでお答えしたんですけども、還付できない方がないようにしていきたいと考えております。

委員（大滝文則君） そうではないかなと思ってお尋ねしたんだけど、先般、5年前の期限のある商品券が出てまいりまして確認したところ、使えるという話を聞きまして、要するにお金に換算できるものについての有効期限というのはないんじゃないかと、そのように思いましたんで、今言われた対応でよろしくお願ひしたいということをお言ひします。

委員（三輪順治君） 先ほど環境課長のほうから管理台帳があるというふうにおっしゃっていましたが、台帳に書かれているくみ取り世帯数は、今何世帯でしょうか。合計だけでいいです。

環境課長（谷みち子君） 美星町のし尿くみ取りの世帯数ですが、728世帯となっております。

〈なし〉

〈討論〉

委員（三輪順治君） 先ほどある委員も言いましたように、現在委託業務で決まっております金額がありますが、その設定もまだこの段階でできてない。非常にスケジュールがきついで、4月からの運用に向けて、審議会を開いて決めると。私とすれば、基本的には賛成なんですけれども、そのときに、現行の水準を上回らないように設定をお願いしたいというのを討論としてつけ加えます。

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第95号 井原市病院企業職員の給与の種類及び基準を定める条例の一部を改正する条例について〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第97号 いばらサンサン交流館の指定管理者の指定について〉

委員（西村慎次郎君） この指定管理者の選定は、1法人からの申請という説明だったと思うんですけど、これ自体はプロポーザル方式によって公募したということによろしいですね。

健康福祉部次長（沖津幸弘君） プロポーザル方式です。指定管理者を募集要項に基づきまして募集をかけました。

委員（西村慎次郎君） 募集要項によって公募したということですけども、1法人の場合でも選定基準に基づき選定したということだと思うんですが、その選定基準というのはどういうものでしょうか。

健康福祉部長（山田正人君） 選定基準でございますが、大きく4点ございます。

1点目が、住民の平等な利用の確保が図れるものであること。

2点目が、公の施設の効果を最大限に発揮するものであり、市民サービスの向上を図ることができるもの。

3点目が、公の施設の管理を安定して行う人員、資産、その他経営の規模及び能力を有するもの。

最後4点目が、公の施設の利用を促進し、管理経費の縮減が図られるもの。

この4点が選定基準でございます。

委員（西村慎次郎君） 1法人の場合、その選定基準で選定委員が評価されるんだと思うんですけど、選定、採択するときに、この法人で大丈夫だという何か最低ラインの基準というのがあるんですか。

健康福祉部次長（沖津幸弘君） 先ほど部長のほうで申しました選定基準に基づきまして審査を行い、点数を入れて審査し、合格した者でございます。

委員（西村慎次郎君） そのときに、点数がどうあれ、その法人で大丈夫という判断を何かされるんだろうなと思ってるんですけど、それはないんですか。

健康福祉部次長（沖津幸弘君） 選定委員それぞれが最終的にそれぞれの項目を判断した上で、最後に「適」、「不適」という結果を示す欄がございまして、今回皆さん「適」ということでございました。

委員（三輪順治君） 関連して、選定委員は何人でしょうか。それと外部の方も入ってい

るんでしょうか。

健康福祉部長（山田正人君） 選定委員は、全員で8人でございます。そのうち4人が外部委員です。内訳は、民生児童委員、それから老人クラブ連合会、女性協議会、PTA連合会の各代表が1人ずつ。あと、4人は市の職員でございます。

委員（三輪順治君） わかりました。

偶数の人数ですと、8人全員が「適」、「不適」をつけるんですか、それとも委員長を除いて「適」、「不適」をつけてやるんですか。偶数に決められたことは賢明なことだと思うんですけど、運用上の想定とすれば、方法論としては選定委員がまずつけて、最後同数であった場合はかなり困りますから、それで決着するようにされているんですか。

健康福祉部次長（沖津幸弘君） 選考では、皆さん一緒に出しました。

委員（三輪順治君） わかりました。

いずれにしても、指定管理については、今後の行政へのあり方の一つの大きな手法だと思います。これからも適正な選定委員のあり方、そして選考の仕組みについて、ぜひ十分な議論を重ねて、これから先も恐らく起こるであろう選定委員会の運用を、公平中立にやっていただけばというふうに思ってます。

私のほうから最後に、現在までに同法人が5年間やられてますけど、もしお手元に資料があれば、利用者人数とか現行の指定管理料は幾らなのか、参考までに教えてください。

健康福祉部長（山田正人君） いばらサンサン交流館の利用状況でございますが、現在、平成30年度の資料しか持ち合わせておりませんが、2万6,888人でございます。それから、指定管理料ですが、本年度予算額でございますが、2,630万6,000円でございます。

委員（藤原浩司君） いばらサンサン交流館は、私の家の近くにある施設でございますけど、先ほど部長のほうから平等とか公に役立つとかいろんなことを4点、市民サービスの向上ということでお伺いしました。

平等かどうかは言いにくいんですけど、平等ではありません。ある特定の人物だけが集まってそこにおられるばかりに、ほかの市民の方が有効に使えない。これは、議会への提案箱にそういうことが入っていたわけではなくて、老人会の方から直接耳にしたことですが、テレビを見られる方はいつも決まっていて、チャンネルはその人が独占している。それから将棋とかをされるのは、それはそれでいいんですけど、される方で独占している。中に入る雰囲気すごく悪いし、それから窓口の社会福祉協議会の職員の態度が悪い。だから、行かないと。そういう苦情をすごく聞いています。老人会でも使わないと、そのように聞きました。これに関しては、行政のほうにも少し風の便りで耳にすることがあるかどうかは知りません

けど、駐車場一つにしても、そういうふうにも活用される方は、建物の一番手前に置かれます。駐車場を本当に必要とされている方は、アスファルトの駐車場に置かれずに、遠くのほうへ置かれます。そういったところも平等じゃないですよ。一個人の方が活用されている。大体テレビを見る方は1人です。奥のほうでござそされる方が4、5人おられます。大体トータルでいいますと、7、8人の方が毎日使っておられます。ですから、その人たちのたまり場になってます。それを、きちっとした管理体系ができないといけない社会福祉協議会の運営形態の、どのようなところが評価的に点数がよくて指定管理者になってるのか、お伺いします。

健康福祉部次長（沖津幸弘君） 藤原委員のほうからそういう指摘をいただきましたが、少なくとも私はそれを今聞いたのが初めてでございます。来られる方というのは、そこに憩いの場を求めて来られる。それが、現状、独占状態になっているというご指摘でありますので、今後、そういうことがあるのかないのか、しっかり確認させていただきまして、ほかの方に迷惑になるような行為であるということになれば、きちっとそういうことがないように指導していきたいと思います。

委員（藤原浩司君） そういった指導は、はっきりと言ってするのが当たり前のことなんですけど、そういった指定管理者がなぜ指定管理を受けられているのかということを知っているんですよ。評価的にどうしてそういうふうになるのかということ。それっていうのは、選定委員に市の職員が4人、それから老人クラブ連合会等々、外部委員の方が4人おられるんですけど、そういった方々は情報がわかっていない方ばかりじゃないんですか。一般市民から公募を受けたほうがいいんじゃないんですか、老人クラブ連合会とかそういうところばかりじゃなくて。

県外のナンバープレートで来られる方が駐車場が使えないばかりにあの狭い道へ車を置かれて、何回も事故になりかけたんですよ。そういうこともご存じじゃないでしょ。それっていうのは、行政も手抜きをしている、外部委員4人の方々も、地域が遠い方だったら、いばらサンサン交流館にしょっちゅう来るようなことはないですからね。地域の方々が、井原市全体でもそうなんですけど、有効に公平に使えるところがいばらサンサン交流館の意義じゃないんですか。もともといばらサンサン交流館という名前をつけた意味を次長はどのように聞いておられますか。

健康福祉部次長（沖津幸弘君） サンサン交流館ということで、お年寄り、働く世代、それからお子さんの三世代、みんなが集まれる場所ということでできていると思います。

委員（藤原浩司君） 集まってないですよ。特定の方が毎日10人ぐらいいるだけで。お年寄りばかりでも、たくさんのお年寄りが来られるんだったら僕はいいと思うんですよ、本

当にすばらしいことだと思います。あそこで陶芸教室等々があるときにはたくさん来られますよ、確かに。ほかの会議室を借りてされてる方はたくさんおられますけど、でもそういった方々が来られるのも当たり前。それから、市外、県外から来られても、いばらサンサン交流館がどこにあって、どんな施設なのか、温泉はどこにあるんだろうかということを、もともと井原温泉であそこは地図に載ってますが、どうしてそれをいばらサンサン交流館に聞かずに、我々の住んでる向町地区であるとか、ゲートボールをされてる中町地区の方であるとか、そういう方にお尋ねになるんでしょうか。それっていうのは、施設の中に入りにくいからでしょ。指定管理を受ける方が本当に運営をきちっとされてるのかされてないかということは、行政の責任ですよ。まして、ここで2,600万円、管理費がかかるんです。これは、皆さんの税金ですよ。使える方も税金は払ってるんでしょうけど、使えない方も同じくこの税金を払ってるんです。そうでしょ。市外、県外から来られた方が、井原市は有効な場所があつていいなあというふうに言われるのが、指定管理を受けた方の本当のやられることじゃないんですか。少し社会福祉協議会に頼り過ぎじゃないですか。職員も手いっぱい、私が議会への提案箱の確認で窓口へ行ってもあいさつもできないんですよ。できませんよね、事務所にいないんですから。何をされてるのか知らないですけど。通常だったら3人職員がおられるんですけど、その3人とも事務所にいないんですから。こんにちばって言ってあいさつしても誰もいないんですから、無理ですよ。そういったところも選定基準に含めないといけないと思いますよ。ましてや5年間でしょ。もういばらサンサン交流館が建って社会福祉協議会が何回指定管理を受けましたか。

健康福祉部次長（沖津幸弘君） 平成22年にできて、今5年ずつの2期が終わって、今回3期目ということです。

委員（藤原浩司君） ということは、10年ですよ。どうして10年前から変わってないんですか。10年前は、まだたくさん来られてました、間違いなく。でも、今はそれが減ってってます。ですから、指定管理のやり方というのはきっちり考えていただかないと、ここに任せておけばとか、ここが選定基準の点数がいいとか、今まで事故がなかったんだからいいというような問題じゃないですよ。選定をされる中の外部委員にしても、市の職員にしても幹部の方が見られてるわけでしょうから、そこは定期的に監視をしながら耳を立てて、よくお聞きになって、本当に市民のためになる指定管理者を選んでいただくことを、私は強く要望したいです。

どこの指定管理にしてもそうです、あすわにしてもそうです。駐車場の障害者等に優先して駐車していただくところへ、普通の一般の方が置かれてるでしょ、苦情来てますよ。そういったことがまかり通るような行政じゃ、行政の役目にはならないということです。しっか

り、ここはやってもらいたいと思いますが、部長、どう思われますか。

健康福祉部長（山田正人君） いろいろご意見いただきました。

まず、選定委員会の委員を公募にしては、というご提案もいただきました。次回からはそういうことを検討したいと思いますし、今おっしゃったとおり、テレビを見る方がずっとテレビを見る、将棋をされる方はずっと将棋をされてる、駐車場もいろいろ問題がある、職員の接遇も問題があると、いろいろご意見をいただきました。直ちにこの指定管理者、現在は候補者ということになりますけど、しっかりそのあたりの接遇等もしっかり行政として指導をしていきたいと思います。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

委員長（簗戸利昭君） 以上で議案の審査は終了いたしました。

なお、委員会報告書の作成につきましては、委員長にご一任願いたいと思います。

〈異議なし〉

〈所管事務に関する執行部からの報告〉

〈井原市国民健康保険事業特別会計（保険事業勘定）の状況について〉

委員（三輪順治君） 細かいことは別として、この国保の件については、現在県のほうに移管されておりますが、気になるのは安定した運営と、それから利用者の国保料がこれ以上負担がかからないような対応でございます。

今のところ井原市においては、まだ標準税率が具体的に示されていないところではあるようでございますけれども、引き続き県のほうとよく連絡をしていただきながら、市民の対象者の方々に、これ以上負担が重くならないようにいろんなご配慮をお願いしたいというふうに思ってます。

〈なし〉

〈所管事務調査〉

委員長（簀戸利昭君） 本日の所管事務調査事項は、市民病院の現状と課題について、次にバランスのとれた子育て支援について、次に井原市における生活困窮者等支援についてであります。

このほかに、不測の事態により緊急に所管事務調査事項として追加すべきと思われる提案がございましたらご発言願います。

〈なし〉

〈市民病院の現状と課題について〉

副委員長（柳原英子君） 厚生労働省の再編統合の検討という新聞記事を読んだときからお聞きしたいなと思っていたことではありますが、今詳しくお聞きいたしまして、赤字が続いているというところで心配をするところであります。

それに関して、市民としても市民病院に対して何かできたりすることがあるのかなとか、病院に行ってあげれば一番いいんですけども、そういうこともお聞きしたかったのと、あと今井原市民病院が立ち位置としてどういう病院という機能を目指そうとされているのかというところもお聞きしたいと思います。

病院事務次長（一安直人君） 質問にございました市民にできることにつきましては、先ほど柳原委員も言われましたように、市民の方に利用していただくことが一番というふうに考えております。

また、立ち位置としましては、地域包括ケアシステムにおける中核病院であるという立ち位置でございまして、それを守ること、高機能病院や地域の医療機関と連携を密にして、現状の医療提供体制を維持してまいりたいというふうに考えております。

委員（西村慎次郎君） 資料の1ページ目、2ページ目に関連して質問をさせていただきたいと思いますが、入院患者数は増加傾向、外来患者数は減少傾向ということで、ただ収支のほうは平成30年度でいくと1億5,000万円ぐらい赤字のようですけども、その対応として患者増に向けた対策をとっていきたいという話だったんですが、じゃあバランスのと

れた収支にするためには、どれぐらい患者数がふえればいいのかという見込みでしょうか。損益分岐点をどう見られているのでしょうか。

病院事務部長（田平雅裕君） 損益分岐点についてですが、平成30年度も約3,000万円の赤字でございました。ことしの状況も、先ほどご説明申し上げましたが、入院患者が過去3年間は増加傾向にありました。ことしにつきましては、若干入院患者が減少いたしております。

現在、稼働病床135床ございまして、収益の中心は入院の部分がウエートを占めております。入院患者につきましては、分岐点としては、月平均で120人以上の患者の入院が年間の費用に対して必要ではなかろうかというところを考えております。それと、入院単価につきましても、単価アップということが必要なんですが、不要な検査をたくさんするということではございませんで、診療報酬の請求についても、より綿密な精査をして各保険者へ請求をしていくというところが重要ではなかろうかというふうに考えております。

委員（西村慎次郎君） 損益分岐点という話をしたんですけど、月平均で120人の入院患者がいらっしゃればってということで、この1ページ目の資料でいくと、「入院」のところが、「平成30年度」で「127人」ですが、そうするとプラスという理解でいいんですか。

病院事務部長（田平雅裕君） 平成30年度1日平均127人で、先ほど申しましたように3,000万円の赤字ということになりました。費用に関しましては、人件費部分がウエートを大きく占めております。退職者が定年前に退職するというような場合も昨年度もございまして、そういった退職に対する特別負担金の支出でありますとか、そういった人件費部分をなかなか抑えるというのは難しいところではあるんですが、そういったところと、それから経費部分でさらに削減をしていくというところでバランスをとっていきたい。収支は基本的には黒字になればいいんですが、プラス・マイナス・ゼロというような方向を目指しております。

委員（西村慎次郎君） プラス・マイナス・ゼロでいいんだろうと思ってるんですけど、経費の中で固定費と変動費とあって、変動費というのが患者数の増減で変動していく部分だけど、患者数の増減に関係ない固定費の部分をどれだけ抑えられるかなんだろうなと。それで、損益分岐点が下がってくるっていうところになるんだろうなというふうに思いますので、引き続きそのあたりの取り組みをお願いしたいと思います。

あともう一つ、救急医療体制についてということで、今専門の救急医師はいらっしゃらないということですが、もともと救急科を設けられたときには、救急専門医師を配置するという方針だったのか、今の状態を想定内の話でやってるのか、その辺、もともとの体制づくり

のときの経緯等はどうだったのか、教えてください。

病院事務部長（田平雅裕君） 平成29年から救急医が新たに赴任をいたしました。申しわけございませんが、私もそのあたりの詳しいことを存じ上げておりませんが、大学へお願いして、救急医を求めて、それでは配置しようというようなことは、こういった地域の病院ではなかなか難しいケースであります。今はもう退職しておりますけれども、たまたま井原市民病院で勤務がしたいという救急医がその当時いらっやいまして、管理者、院長のつながりもあったのかなというふうに考えておりますが、そういったこともありまして、救急医に赴任をいただいたという経緯でございます。

委員（西村慎次郎君） 組織としては、救急医療体制が充実するということはいいいんですけど、医師を配置するかしないか、そのあたりはたまたまだったというような感じがしていけないんですが。どういう経営方針とかどういう医療体制を組んでいくとかという考えのもとにそういう医師の配置はされてるんだと思うんだけど、救急医療体制に対してその辺をどう考えて当初専門医を配置し、今はもう井原市民病院ではそこまでの配置は必要ないという判断をされているのかと、そこら辺考え方が変わってきてるのか、もともとそういう考えで、たまたまそういう医師が手を上げてこられたから受け入れたのかっていう、そのあたりはどうなんでしょうか。

病院事務部長（田平雅裕君） 済みません。たまたまと先ほど申し上げましたが、第7次総合計画のアンケートでありますとか病院に対するご意見の中で、市民の皆様からは救急医療体制を充実してほしいという声をたくさんいただいております。そういった中で、病院としましても救急医療体制の充実というのはずっと考えておりました。そうした中で、市長なり院長が大学等に訪問した際には、そういったお願いもしておりました。そうした中で、救急医が来ていただけるというようなお話になったわけでございます。今後も救急医療は、市民の皆様のニーズは大変高いところがございます。ですから、救急医が退職していなくなったからということではなく、救急医療体制は、今後も引き続き重要な病院の使命であるというふうに考えて、充実をしていくという方針に変わりはありません。

委員（西村慎次郎君） わかりました。

現状は、例えば日中とか外来患者を受け入れているときに救急搬送されてきた場合、緊急の場合は、多分外来患者を待たせて通常外来対応している医師がそこを対応しているんだということで、悪循環に一部なってるのかなというふうにも思ったりするんで、救急体制というのはしっかり、専門医がいれば理想ではあるんだけど、そういう体制づくりっていうのは引き続き検討していただきたい、取り組んでいただきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

委員（惣台己吉君） 2点お聞きします。

まず1点目で、私は人間ドックは井原市民病院に行っているんですけど、例えば内視鏡をして切ったりした場合には、入院しないといけないという話の中で、今まで個室があいてることが一度もなかったんです。ということは、入院患者をふやすに当たっても、個室はずっといっぱい状況であるということですか。私が利用する時は、空き室があっても一般か特別室ならということでは言われてるんですけど、どういう状況でしょうか。

病院事務部長（田平雅裕君） 個室の空き状況についてでございますが、実は昨年この時期は135床満床の日がずっと続いておりました。人間ドックで入院が必要だということにも、その日に対応ができないというような状況もあったかと思います。高機能病院から井原市に帰りたいたいけどというときにも、なかなかあいたベッドがないというようなことで、どうしても受け入れができないような状況が昨年続いておりました。現在は、実は先ほども申しましたように、入院患者数がちょっと減りまして、あき病床もあるので、個室についてもご利用は可能だと思います。その時期に、15床でも2階病棟の再開をというようなことで進めておまして、そういった対応で入院したい方にご迷惑をかけないというような取り組みを今している状況でございますが、ことしになって、7月以降入院患者が若干減少しております。そういった状況も見きわめながら、今休棟している2階病棟についての検討をしていきたいというふうに考えております。

委員（惣台己吉君） もう一点。実は私は去年メニエル病になって、そのときの救急病院が市民病院になっていたので行ったときに、その救急医の先生がいらっしゃってちょっとお話をしたんですけど、結局、市長や院長の人柄にほれてきたんだというすごい熱意を感じたわけですが、やめられるというのは一身上の都合でしょうけど、待遇がよかったか悪かったかとかというのは答えられないと思うんですが、非常に残念だなあと。その第一の要因が答えられるものであれば答えていただきたいのと、今後、救急医の先生をこちらにお呼びするという意思があるかないか。どうも今の状態では難しいんじゃないだろうかという雰囲気ですけど、それは市民としては納得できないことでもあるのかなということがありますので、その点をお聞きしたいなと思います。

病院事務部長（田平雅裕君） 退職の要因でございますが、これは個人的な理由によります。1点、病気にかかられました。ご家族のこととかいろいろございまして、そういった大きな要因が一つございます。

それから、救急医の確保でございますが、現在救急当番の日には岡山大学の救命救急の教授なり、そこの先生に日直業務をしていただいております。常に教授と院長もしっかりと調整をとりながら、教授のほうも井原市に対しても熱い思いを持っていただいております。救

急医が不在となりましたが、今後について研修医であるとか、それから地域卒の学生であるとか、そういったところについてもできるだけ協力したいという力強いお言葉をいただいております。そういったことを引き続き連携をとりながら救急医の確保には一生懸命努力しているような状況でございます。

委員（藤原浩司君） 私もこのたび一般質問でいろいろと市民病院のことは言わせていただいたんで、大体把握はしました。ただ、運営状況というのはなかなか難しいもので、私が一般質問でも言いましたように、黒字が出るだけではなくて、井原市民病院へ来てよかったという、本当にそういう気持ちを持たれる方がお金にかかわらない財産だと思いますので、そこは医師、それから看護師、ほかの職員にも、今のような体系よりまた一つ上の体系を望みます。

救急医療体制のことを各委員も言われておられますが、たしか救急医療体制をするときに、岡山大学病院のほうへ数千万円のお金を投じたという経緯もありますし、それから救急医療をするために病院の施設更新をしたお金もかかっております。そういう中で、院長が自分の友達である教授であるとかを呼ばれて、病院事務部長が説明されたように今対応されているんであろうとは思いますが。私一委員、一個人としては、岡山大学病院との連携は太いパイプを持ってほしいと思います。そこには、研究費であるとかなんとかというのは、井原市として、公の市として大きな金額の研究課題、それから市民病院を存続するための先生のためにお金を投じていただきたいなど。先般も救急医療体制をするときに数千万円はかかっておるんで、数千万円とかということじゃなしに、億の単位のお金をきちっと予算づけしていないといけないのも事実なのかなと。これは私は感じております。お金のかかることは、かかっても仕方ない、それが公的な病院の役目であると思えます。

あとは、一般質問でも言いましたが、機能性の高い地元の民間病院をいかに存続して、公立病院の立ち位置をどういうふうにするかということが一番肝心だと思うんですが、今の段階でいきますと、市民病院自体が高機能までは行きませんが、緊急性のある病院で、中核の病院であるわけなんです。緊急性ということになりますと、この間、説明でもありましたように、簡単な手術をしていらっしゃるんですけど、それこそ高機能の場合にはすごく看護師が必要で、そういう対応をしないと高機能の病院は存続できないということがあります。ですから、そういうところにはかなり、大学病院でも人員が要るんですが、簡単な手術でそれだけ看護師が要るのかなと。医師にかかる給料も高いんだろうとは思いますが、今の医師の人数とベッド数と患者数の中で、私は看護師が多過ぎるような感じます。というのも、事務で医師に負担をかけないように事務員までも雇った上で、看護師がまだ足りないから募集されてますよね。給与体系が67%で、70%近いという、例えば株式会社だったら完璧に

2、3年で倒産します。

だから、そういうところも高機能じゃないんですから、矢掛町を例に出しますと、産科とかはどうしても先生がいなくて倉敷市の病院に担ってもらってるんですが、救急搬送を積極的に受け入れてから、2018年から2年間ずっと黒字が出ているんです。矢掛は町がやってるわけですから、そういう近くの病院のことも、どういうふうにしているのかという研究も必要でしょうし、緊急病院ぐらいでおさめると、このままの状況でおさめると言われたんですけど、手術をするのに人員が要るのであれば、そこは省いて公立病院としての立ち位置を考えていかないといけないと思うんですが、なかなか難しいと思います。

ただ、お金を投じてやめられた先生、本当に聞きにくいんですけど、理由もわからない、答えてくれと言ってもわからないと思うんですけど、病院事務部長から考えれば、どのような要因が一番大きかったんでしょうか。せっかく来ていただいた先生がいなくなったということ、それを教えていただきたいです。

病院事務部長（田平雅裕君） 先ほども申し上げましたが、個人的な病気の要因が私から見ただころでは一番大きかったというふうに考えております。

委員（藤原浩司君） もうこれ以上は聞きません。医師も人間ですから、いろんな悩みがあり、上から抑え、下からつつかれ、云々かんぬん患者のことも考えて、いろいろ難しい問題があると思います。そういった中で市の執行部から病院事務部長が行かれていますと。院長もなかなか頑張っておられるんで、とにかく大学病院と太いパイプをつくるのは、これから先、井原市民病院を存続するためにどのようにすべきかということを院長ともあわせて病院事務部長のほうがよくヒアリングをしていただいて、またなおさら副市長、それから市長ともヒアリングをされた中で、どういうふうにしていくかということはしっかりと協議をしていただきたいなと、市民福祉委員会の委員としてはそれを求めます。

それと、健康まつりのアンケートですが、健康まつりに来られてる方の人数を見ると、案外アンケートの人数が少ないなと思うんです。玄関から入られた方からもっとアンケートがとれるような形を何か考えていつていただきたいなと思うんです。その辺はどうでしょうか、アイデアがあれば。

病院事務部長（田平雅裕君） アンケートの件ですが、実は職員が入ってこられる方にはすべて手渡しでアンケート用紙を渡してます。二百数十名でしたが、ほぼお渡しはしていると思うんです。あと、家族連れとかお子さんとかもたくさん来てくださるので、いろんなあめを渡したり、いろんなグッズも渡すんですが、1家族に1枚というような形でアンケートは、私はほぼしていると思いますので、そういった対応でご協力をお願いしているというのが現状でございます。

委員（藤原浩司君） いろんな形で薬とかを買う会社から備品をいただくようなこともありましようから、そういったものを最大限に利用されて、お配りしたアンケートが100%返ってくるように、アンケートに答えていただいたら、それをお持ち帰りくださいよというような形で、そのご家族にお子さんがおればお子さんが喜ぶようなものを、お金のかからないような形で渡すというような、とにかく100%のアンケート率をとっていただきたいなと、私はそのように思います。そうすれば、高齢者の方も若い方も、奥さん、それからご主人も子供たちもいますから、そういった意見が多様に引き出せるのかなと、そのように思いますので、そういうところもあわせて今後の市民病院の健康まつりではやっていただきたいなと、そのように思います。

それと、働く環境整備なんですけど、実際は働き方改革といって国のほうはやってますけど、医師会とか大学病院の医師、それからいろいろな情報誌を見てみますと、そのあおりを受けた結果、誰が泣くことになるのかということも多く書かれております。結局、患者に迷惑がかかるということなんです。でも、医師の方々は残業とか思っていないということも多く書かれてます。ですが、昔からことわざにありますように、医者の不養生ということがありますので、休みは休みである程度とっていただかないといけないとは思いますが、そこら辺のあり方を看護師なりいろんな形で補っていくのは当たり前ですけど、看護師も多ければ経費がかかりますので、そこらあたりも十二分に院長と、それから岡山大学病院がどういうようにされてるのかということも研究課題に入れて、しっかりと市長、副市長、それから委員会も含めて協議をしていっていただきたいなと思います。

それから、障害者雇用は33.3%、もう十分ありますが、掃除であるとか、それから事務であるとか、実際に委託を受けていただいている会社が、障害者を使っているというように経緯はございますでしょうか。

病院事務部長（田平雅裕君） 清掃、保守、それから外来の窓口業務を委託をしておりますが、障害者雇用については、現在把握しておりません。

委員（藤原浩司君） 把握されてないということで、それこそ見積もり合わせをされてるか、入札をされてるんだと思うんですけど、特記仕様書の中に優先的に障害者を雇用していただくことを盛り込んで、そういったところの業者を選定をしていくべきではないかなと、私はそのように思います。というのも、みんなで協力していかないと、障害者の雇用というのはまなりません。そういう中で、一番安全・安心を守るための病院の事業の中で、実際委託を受けたり、実際の管理業務であるとかいろいろなことを受けるっていう方々は、温かい気持ちで命を守っていただける中で働くのにそういう会社が、そういった優しい気持ちがあって理解がないと、まずいんではないかなと思います。病院だけが動けばいいんではな

く、そこで受けられた仕事をされる方にも1人2人でなく、できる仕事があればそういう方々に率先して地元の障害者福祉の向上のためにもやっていただくというようなことを特記仕様書の中に盛り込んでいただくことも、これも手ではないかなと思います。

ぜひともこういうところもあわせた中で、市民の皆様が市民病院に行かれて40分待ったから、時間が長いとかということがアンケートに書いてありましたが、どこの個人病院へ行っても30分以上は待ちます。たまたま5分で入れるときもあります。ですから、そういうところは余りアンケートで信頼性はないなと思います。1時間以上待ったときに待たされたなっていうのが当たり前のことであって、10分以内に診てもらえるのであれば、私は早いと思います。私自身が病気をしまして岡山大学病院で治療していただきますが、予約をとってても1時間、2時間おくれることはへっちゃらです。でも、何ら苦にはなりません。それは、どうしてかということ、自分の命のためですから苦にはならない。そういったことも患者に、何らかの形で理解してもらうような手だてを、また委員会も含めて皆さんと一緒に協議していけばいいんじゃないかなと思います。

いずれにしろ、今回の厚生労働省の出しました医療構想というものは本末転倒のやり方だと思いますが、ベッド数を減らすために強行にやったことだと思いますので、今の立ち位置は市民のためにきっちり守って、それから医師会と連携を組んで頑張っていただきたいなと思いますので、よろしくお願いいたします。

委員（大滝文則君） 病院の運営とか課題というのは、非常にデリケートで難しい問題がありますので、個別の案件については控えさせていただきますけども、今回の所管事務調査の一番のポイントは、厚生労働省から出した文書によって、経営、運営状況の悪化が非常に懸念されているということで、市民病院もどうなんだろうかなというものの視点が大きなところではないかと思います。

そうした中で、先ほど10月までの本年度の損益の比較が出ましたけども、これは一般会計からの繰り入れ前の数字だと思うんですけども、一般会計を繰り入れた後、このままでいくと年度末までに予想損益はどのようになると想定されているかお聞きします。

病院事務部長（田平雅裕君） 予想損益でございますが、先ほどおっしゃいましたように、市からの繰り入れ、減価償却、それからいろいろなものがございます。ただ、現状で先ほど見ていただきましたように、昨年から比べると費用のほうも下がっておりますが、収益のほうが大きく下がっております。ですから、昨年の赤字幅は大幅に上回るのではなかろうかというところで今見ておりますが、これからまだ数カ月ございますので、先ほどもご提言いただきましたが、地元の医師会をはじめ、関連機関としっかりとその辺を今連携をとるように進め、入院患者の増加に努めていきたいというふうに考えております。

委員（大滝文則君） 具体的な数字はなかなか示せないということですけども、この数字から見てもかなり大幅な損益の悪化が想定されるんじゃないかということから、今後努力をいただきたいと思います。

それから、先ほど藤原委員も言われてましたけども、いろんな連携、事務方もそうでしょうけども、市長、副市長、井原市役所を挙げてオール井原といいたいでしょうか、ワンチームといいたいでしょうか、そういう形でしっかりとした対応をとっていただいて、少しでも働きやすい環境、また病院の収支改善に向けて努力していただきたいと思うんですけども、このあたりはどうでしょうか。

副市長（猪原慎太郎君） 市民病院につきましては、皆さんに本当にご心配をおかけをしております。先ほど藤原委員、それから大滝委員からもいろいろご指摘をいただいておりますが、現状では収支もかなり厳しいと言わざるを得ない状況となっております。合地院長が事業管理者に4月からなられたということですが、事業管理者任せにするということではなく、市長、私含めて、定期的な会合を持つなり、しっかりと病院と連携をとって、少しでも赤字を減らす、黒字に転換できる方策についてしっかりと協議をしていきたいと思っております。

委員（大滝文則君） 非常に厳しい状況でございますけども、格段の努力をお願いいたします、終わります。

〈なし〉

〈バランスのとれた子育て支援について〉

委員（西村慎次郎君） まず、医療費に関して、今年度から18歳まで無償化ということで対象年齢を拡大されて、当初予算としては1億7,500万円で、現状、半年間で8,303万円ということでありましたけども、単純に計算すると、下半期の見込みとしてこの予算内でおさまるのかなという気がするんですが、そのあたりの見通しはいかがですか。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 拡大部分の医療費の今後の見込みということでございますが、これまでの実績で先ほど申しあげました金額が、本年度の約4カ月分でございます。医療につきましては、どんな要因で増減するのかということはあるかと思いますが、現在の見通しとしましては、こちらの一月当たりの金額から残りの期間で計算しますと、約2,500万円程度となると思います。見ている予算の中で対応できるものと考えております。

委員（西村慎次郎君） 平成30年度の16歳から18歳の医療費がどれぐらいにかかって

たかというところっていうのは把握できないのかもしれないですけど、無償化になることによって病院へ行かれる子供がふえるんじゃないかという懸念をするところもあるんですが、そのあたり昨年度と今年度の何か比較できるようなものがありますか。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 平成30年度における16歳から18歳の医療費でございますが、こちらにつきましては把握できる資料はございません。

平成31年度の予算を策定するに当たり、中学生の3年間にかかる医療費、こういったものを参考にしておるところでございます。

委員（西村慎次郎君） 続いて、保育料の件ですけども、10月から無償化ということで、基金のほうも充てながら予算措置はされておりますが、今年度無償化に伴ってふえる額、また来年度どれぐらいという見込みを既にされてるようであれば、今年度どれぐらい、来年度どうなっていくっていう、そのあたりの保育料の無償化に伴う今の市の負担というんですか、補助を含めてどれぐらいな費用になってくるか、わかりますか。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 保育料の市への影響額ということでございます。今年度につきましては、予算のときに説明した金額を見込んでおりますが、利用者の増に伴いまして若干の増はあるものと考えております。来年度の見込みでございますが、令和元年10月現在の入園の状況から試算をしておりますものでいきますと、保育料につきましては約1億300万円程度ではないかと見込んでおります。

委員（西村慎次郎君） 今回の質問は、バランスのとれた子育て支援ということで、保育園に通わせながらとか幼稚園に通わせながらとか、または家で見ながらというような、いろいろな子育ての仕方っていうのがあるのかなとは思ってるんですけど、どういう世帯がどれぐらいいらっしゃるのかっていうところで、ゼロ歳から2歳まででいいんですけど、非課税世帯、課税世帯がそれぞれどれぐらいいらっしゃるって、保育園に通わせてる世帯のうちそういう分類、保育園に通わずに家で見られてる世帯がどれぐらいいらっしゃるか、その辺の世帯数の把握がされてるようであれば、それを教えてください。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 保育園に通われている子を持つ世帯の課税、非課税の状況についてというようなところでございます。

10月1日現在のゼロから2歳児につきましては、世帯ではなくて人でございますが、378人いらっしゃいまして、そのうち住民税を課税されているところが340人、非課税が38人でございます。幼稚園、保育園等に通われてないところのご家庭についての調査はしておりません。

委員（西村慎次郎君） 1年間で約200人が出生しているということであれば、ゼロ歳から2歳児でざっと600人前後なのかなあと、勝手に想像してしまいますけども、そのう

ちの３７８人の方は保育園に通われているということで、非課税が３８人、課税が３４０人ということで、国の制度でいくと非課税世帯を保育料無償化ということで、市のほうで課税世帯も無償化ということなんだと思うんですが、わかればいいんですけど、国が非課税世帯だけを無償化とされてる理由とか何かわかりますか。なぜ課税世帯は対象にしなかったのかというところで。

子育て支援課長（岡崎祐一君） なぜ非課税世帯だけ対象にしたかというのは、こういうことだという明確なものはございません。

委員（西村慎次郎君） 待機児童が８月が１人、９月が２人、１０月が１人、１１月が１人ということで、１２月からは待機児童がゼロということでありました。待機児童はゼロ歳から２歳までの間というふうに想定して質問するんですけども、保育園のキャパシティとして、そこを受け入れられる人数というのは今何人なのでしょう。

子育て支援課長（岡崎祐一君） ゼロから２歳児ということでございます。市内の保育園の現在の利用定員数で言いますと、３５１人の定員がございます。

委員（西村慎次郎君） ３５１人の定員の中で、３７８人の方が今保育園に通われているということで、２７名の差はあるんですが、それはどういう対応をされて受け入れられているんですか。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 利用定員に対しまして、それより多い数の受け入れをしていただいているわけですが、定員より２割多い数が複数年続くような場合はペナルティーがあるんですけども、２割以内でしたら受け入れが可能という国の指針がありますので、そうした中で市内の園には対応をさせていただいておるところでございます。

委員（西村慎次郎君） ８月から１１月は待機児童が出ている、１２月からはそれが解消したという、そこはどのような形で解消ができたんですか。保育士の確保ができたから待機児童が出ないようになったのか、保育園に通ってる子が住所が変わられて園を移られたとかやめられたとか、そういう理由なんですか。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 入園につきましては、毎月入園審査会ということで行っておりまして、そうした中で利用申込者の希望に沿った形で入園ができるように調整を行っております。どれだけ入園できるかというのは、その都度各園から来月はどれだけ可能かというようなことを聞き取りをしまして、それに見合う年齢区分の数によって入園者が定まっておりますので、待機児童ゼロに１２月からなったということについては、園のほうからの受け入れが可能だということがありましたので、できたということでございます。なぜそれが受け入れができたかということについての問い合わせはしておりません。

委員（西村慎次郎君） 保育園に通われている園児が減ったから待機してる人が入ってこ

られたわけじゃなくて、受け入れる器が広がったという感じで、体制が充実したという理解でよろしいですね。

子育て支援課長（岡崎祐一君） そのとおりです。

委員（西村慎次郎君） まだ今後もそういうニーズってふえてくるのかなという気はするんですが、その対応としてどうされようとしてるかというところで、先ほどの一時預かりというのを14日以内を15日以上に拡大するということで、ゼロ歳児から2歳児もそういう対象になるという理解でいいのかということと、通常の保育園へ預けるのと一時預かりで見られる時間帯は制限されるとか、何かそういう違いはあるんですか。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 一時預かりについては、ゼロから2歳の方ももちろん対象となります。一時預かりにつきましては、丸1日利用ということはもちろん可能ですので、幼稚園、保育園などと同じような時間帯で預かることは可能であります。

委員（西村慎次郎君） ということは、今後は一時預かりの期間が15日以上も可能ということになると、一時預かりで預けたら、それを待機児童と呼ぶのかどうかというのはあるんですけど、そうなって受け入れられるということは、待機児童は今後出ないという理解でいいのかな。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 現在のところ、もしそうして入れなくて就労などで見れないというときには、一時預かりは活用していただければいいと思いますが、全体的には新年度からの幼稚園の預かり保育の時間延長など、それから保育士確保対策というようなことから待機児童をゼロで進めていきたいと考えております。

委員（西村慎次郎君） 保育園に入園するとき、例えば市外からの入園も可能なのかなと思ってはいるんですけど、そういう方と市内の方で何か順位づけっていうのはあるのか。今通われてる方は、来年度希望があれば必ず引き続き入園できるのか。待機児童の方っていうのは、あきがない限りは入れないのか。その辺、来年度の募集に関して入園の優先順位というのがつくのかどうなのか、お伺いします。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 市外からの利用ということがありますが、これは広域的な利用ということになってまいります。そうした場合には、市内の方のほうが順位が高く、市外からの広域利用というのは、その一番後ろへひつつくような形で進めていくようになります。また、今保育園に行ってる人が優先的なのかということについては、これは特にそういったことはございません。保育の必要性が高い方からということになりますので、現在保育園に行かれてる、行かれてないというのは考慮されません。

委員（西村慎次郎君） ということは、今市外から井原市内の保育園に通われている方よりも、市内の方で新しく申し込む方のほうが優先順位は高いという理解でよろしいですか。

今保育園に通ってる方でも、それが市外の方であれば、もしかすると来年度、受け入れするキャパシティがあふれてしまうと入れない、継続して利用できないという可能性があるということなんですか。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 市外の方は、一番最後という順番になります。継続の方もあふれてしまえば、その理屈でいけば入らない場合も数でいえば起きるということはありません。

委員（西村慎次郎君） 今保育園とかに通われてない世帯に対して、市のサービスとして何かないのかなという気がしていて、バランスという意味で子育て世帯でも保育園に通われてる子、幼稚園に通われてる子、家で見られてる人という、すべての世帯に対して均等なバランスのあるサービスっていうのが提供できたらなというふうに思ってるんですが、今自宅で子育てされてる世帯に対する何か施策というのはいないんですか。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 保育園、幼稚園等に通われてなくて在宅で子育てをされていると、家庭において保育ができておられるということでございます。そうした世帯につきましては、例えば何か急なことでございましたら、今のようない時預かりということももちろんありますし、それから地域においては、例えば母親クラブですとか放課後子ども教室、それから児童会館つどいの広場などを利用していただいて、子育ての相談ですとか遊びの場の提供ですとかというところを、おうちで子育てをされてる方にも利用していただいております。保護者同士の仲間づくりとかというようなところで活用していただいているところでございます。

委員（西村慎次郎君） 経済的な支援っていう視点でいったときには、今のところないのかなと思うんですけど、そのあたりはいかがですかね。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 家庭における保育、家庭で子育てするのは、保護者の第一義的責任ということでございます。家庭でなくても、それから保育所に預けられていても、保護者が自分の子供を責任を持って育てるということは変わりはありません。保育所等に通われれば、就労等によってやむを得ず自宅で保育ができず、保育所に行けば経費がかかってしまうというところの経済的な負担を解消する、軽減していくというのが保育料の無償化だと思いますので、在宅に対する経済的な支援というのは現在のところ考えておりません。

委員（西村慎次郎君） 一般質問の答弁でもありましたけど、子育ての基本は家庭にあるという考え方は私も大賛成なんですけども、そこらあたりのバランスですね、子育て世帯でも家で子を見てる家庭に対してもしっかりとした支援、サービスっていうのがあることによって、子供に親がどれだけかかわれるかがその子の将来的な育ちにつながるところもあるん

じゃないかなというふうに思いますので、働くなということじゃないんですけども、家で見
るための施策っていうんでしょうか、親が子供にかかわる時間をいかにふやしていけるかっ
ていう施策とかサービスっていうのを今後検討していただきたいなというふうに思っ
てます。

いろいろ学校へ上がってきて、今発達障害とかという言葉もありますけど、愛着障害って
いうことで、発達障害は生まれながらに脳に何かの障害があっているところがあるんですけ
ど、愛着障害というのは、親が子供とどう向き合ってたか接してきているかによって何らか
の障害が起こってくるというようなところもありますので、ぜひ親子のかかわりがふえる施
策っていうのも今後検討していただきたいなというふうに思います。

委員（惣台己吉君） ある程度具体的に教えてください。

外国から留学してる高校生が、寮へ入ってるとか下宿してる子は住所を移してるはずなん
ですが、そういった子が医療費の対象となるかどうか。それと、市外からの高校生が下宿と
か寮に入っていて、住所を移してる子、移してない子とかいた場合は、医療費の対象になる
のか、ならないのかをお聞きします。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 子ども医療費の資格についてのお尋ねだと思います。

外国人の方で高校生で寮に入られてる方で、井原市に住所を置かれてる場合は資格がござ
いますので、資格証は当然出せます。市外から来られていて、住所を井原市にお持ちでない
方の場合は、住所がある市町村においての子ども医療費の資格となりますので、住民票のあ
るところでの医療費の資格証の交付ということになると思います。

委員（惣台己吉君） 今後、そのお考えを変えろとかということは、今のところは持つて
おられないでしょうか。例えば同じ寮で住んでおられて、もしも同室で何かの場合にけがを
したとしますよね。そういう場合は、どうなるんですか。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 井原市外の住所をお持ちの方でいらっしゃるという場合
のことだと思いますが、そちらのお住まいの市町村でそれぞれの子ども医療費なりの制度が
あると思います。その資格証をきつと保険証と一緒に持ってこられていると思いますので、
どこも同じなんですけれども、岡山県内でしたら、窓口へ提示することでその医療給付は受
けられることになっております。

委員（惣台己吉君） もう一点。保育園で定員があるはずなんですけど、これの定員は何年
かに1回見直しをすろとかということはないんですか。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 保育園の定員につきましては、施設の規模に応じて定員
というものがございますので、定期的にそれを見直すということはございません。

委員（惣台己吉君） そうしましたら、例えばそういった保育園にしたら、収支も定員等

もつづくことができないということですね。といいますのが、もし仮に保育園で定員オーバーになったとします。それが2年以上続いたらペナルティーを科せられるというお話だったと思います。そうした場合に、定員をふやせばペナルティーがつかないんじゃないかなと思いますし、それからいつも定員より少ない場合に、定員を減らさなくてもいいんですか。補助とかなんとかの関係があるんじゃないかなと思って。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 各保育園の定員につきましては、年間の平均の入所されている人数が20%というのを超える期間が続きますと、直しなさいという指導が入ることになっております。それから保育の委託料を国、県と市町村から支払いをするわけですが、そうした額の算定についても利用超過が長期間続く場合にはペナルティーがあるとされております。反対に定員が少ないほうについては、要は基準は超えてはいない状態なので、そうしたペナルティーはないと思いますけれども、実態に応じた定員の設定をしてくださいということで指導はあろうかと思います。定員が少ないことによるペナルティーは特にないです。

委員（惣台己吉君） それなら、定員を減らしたりするということは、今までにあったということですね。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 利用定員の減少をさせたということは、これまでなかったように記憶しております。

委員（惣台己吉君） それなら、先ほどの答弁として、定員がふえてもないということですね。

子育て支援課長（岡崎祐一君） 面積要件等の変更によって利用定員がふえたということはあるんですけども、人数超過によってそれを行ったというのはございません。

委員（藤原浩司君） さまざまな委員のお考えと、執行部のお考えをよく聞かさせてもらったんですけど、要は私が一番懸念するところは、1年間の人員の2割を超えなければペナルティーがつかないというふうに言われたんですが、それっていうのは、アバウトで本当に怖い一面ではないかなと思うんです。極力その2割が1割であろうが、そういう場面がないようにしていただくために、いつ引っ越してこられても即対応ができるような形をとっていくためにも、今補助金を出しておる保育園の方が運営されてるところにウエートを置いていただいて、351人の定員の中で今378人、ゼロ歳から2歳までの方がおられるわけなんです、例えば3歳、4歳からの保育園に入れられているお子さんもおられるわけなんですけど、先ほども答弁がございましたように、それは早急に、幼稚園の時間を延長していただくと。幼稚園の存続をきっちりやっていただきたいというのが、私は個人的にはそういうふうにあるべきかなと思います。

今までいろんな形で行政のほうから保育園に負担をかけてきたと思うんです。20%を超えないような状況の中で、そのはざまの中で皆さんが努力してこられた経緯が見られると思うんです。ですから、今後は待機児童が出ないようにしようと思えば、今まで親御さんが保育園に重点を置かれていたり、ゼロ歳から2歳を井原市独自の考えもあって、行政として全部無償にしたりするわけですから、そこは重点を置いて、ほかの大きいお子さんがいち早く幼稚園に行かれるように、幼稚園のほうの協議をさせていただいて、幼稚園の存続も図るべく、子育てをされているお父さん、お母さん方の負担の軽減になるようにしていただいくことが一番なのかなと。そうすれば、保育園ばかりに保育士をふやせよとか言わなくても、幼稚園があいているんですから、幼稚園は十分に確保できるのであればそっちに移行して、3歳以上はしていただくとか、さまざまなアイデアがあると思うんで、要は運営体系的に保育園の運営を悪くするわけじゃないんで、これは。行政のほうからお金をもらうよりは国からおりるお金ですから、完全に確保できるわけですから、潰れるとかということもないと思うので、ぜひともそこはそうように、早急に図っていただければ、この解決はできるのかなと思うんですが、そのあたり、再度お伺いしますけど、本当に幼稚園の協議会のほうで早急にやっていただきたいと思うんですが、それは可能なものでしょうか。

健康福祉部長（山田正人君） 保育園と幼稚園の連携ということをおっしゃったんだろうと思います。

そうした中で、幼稚園の園長先生、それから市内の保育園の園長先生、一堂に会していただいて、いろいろ情報交換、相互理解を深めるための会議を年明けに考えております。そうした中でしっかり連携をとっていきたいと思っております。

委員（藤原浩司君） よろしく願いいたします。

そうすることによって皆さん安心できるし、これからも井原市の人口をふやしていくためには絶対に子育ての場所っていうのは必要なもので、預かっていただくところは必要でございますので、20%のはざままで出たり入ったりして、保育園側のほうに迷惑をかけないように、負担をかけないようにしていただきたいなと思います。

財源確保ですけど、人口も減ってくる中で財源確保も減ってくる。でも、預けるのにそこそこのお金はかかる。子供も減ってくる中で、皆さんが存続していかないといけないことも協議する中で、先ほど西村委員が言いましたけども、お父さんの給料だけでお母さんが子守をして生活されてるところと、2人で共働きで預けられるご家庭とあって、早い話が所得的には2人で働いてるほうが、お父さんだけが働かれるよりは多かったとかという場合には、ご家庭でお母さんが1人で見られて、お父さんの給料だけで生活をされてるほうがかなり負担になるんじゃないかなというような懸念もされるわけなんです。

ですから、全部を公平にバランスのいいようにしようと思うと、なかなか難しい問題はあると思いますが、例えば赤ちゃんが生まれたら、お祝いをお渡しするような形をとりますよね。例えば紙おむつであるとかアルバムであるとか、そういうものは皆さんに支給されていると思うんです。それを、例えば形を変えて、ご家庭で子供を見られているところに関しては生まれたときに、私が平成31年2月定例会の一般質問で言いましたネウボラというような形で、市のほうからそれこそ就学まで使えるような品物をプレゼントするとか、何らかの形で子育てをされる皆さんが隔たりのないようにしていただきたいなと思います。

その辺に関してはいろいろアイデアが出てくると思うんですが、来年度からいろいろな形で進んで、いろんなことを考えているとは思いますが、子育ての若い世帯の皆さんも隔たりのないような形で子育てができるというようなお考えをしていくということについて、今のところ考えてないと言われたんですけど、一般質問でも言いましたネウボラのような形をとるというのも手ではないかなと思います。かといって、保育園に預けられる方は無償で預けられるわけですから、その方にはそれはお配りできないというような、そういう形もあってもいいんじゃないかなと思いますので、そのあたりをどのように思われますか。

市民生活部次長（井口勝志君） 誕生のお祝い品とかを考えてはどうかというご提案でございます。現在は、ご承知のように幼児プレートのセットというものを、ここ数年来はさせていただいておるところです。こちらについても在庫管理をしながら、また保護者の方等のご意見なんかも聞きながら、どういったものがあるのかというのを随時検討しておりますので、今後ご提案をいただきましたことで検討してまいりたいと考えております。

委員（藤原浩司君） そういうところではなくて、家庭で子供を見る方にはこういう形がありますよ、保育園、幼稚園で子供を見ていただく方は無償ですよというような、ちゃんとラインを引くべきではないかなと私は思うので、ぜひともネウボラを、海外のことですけど、一般質問で言っておりますので、そのあたりをまた研究してやっていただきたいなと思います。

あとは、子育てに関しては井原市で子供が育ち、井原市に戻ってきてもらうようなこともあわせて考えていかねばならないなと思いますので、ぜひとも若いお父さん、お母さん方に井原市に引っ越してきていただいて、子供を産んでもらって育てる、子育てにかかる費用が安い井原市をつくっていただきたいので、そこはよろしくお願いします。

委員（三輪順治君） ④の「今後の子育て支援計画と財源確保策」に関連するんですが、今まで述べられてない視点で、ことしの4月から外国人労働者の関係の受け入れが大幅に強化されました。特に、僕が懸念しているのが、特定技能労働者は家族も同伴できるということで、当然幼い子から義務教育の子が入りますよね。どこの国であれ、日本の中で生活

されるということは、一定の保障をしていかないといけない。一番問題なのは、現在でも綱渡りの状態で財源確保、人材確保、施設整備をしています。それに今は募集が少ないですけども、これから特定技能が定着してくれば、そういう該当者がふえてきます。そうすると、保育や教育の場で対応できる言語能力とかいろんなことがふえてきますので、今所管事務調査事項として入ってないことですから何も言いようがないですが、今後、本当に綱渡りの状態が続くなどというような気がしてますので、子育てについては新たな要素、特に外国語とか習慣とか文化とかいろんなことも変わってきますから、十分ご留意され、ご対応に当たりたいということを私は要望しておきます。答弁は結構です。

委員（西村慎次郎君） テーマが「バランスのとれた子育て支援について」ということで、今保育料の無償化とか医療費の無償化っていうことで施策をされてますけども、金銭面でバランスがとれたというところで聞いてみたいんですけど、来年度、保育料の無償化で幾ら費用がかかるかっていうと、1億300万円っていう話があったと思うんですけども、単純に今一学年200人ぐらい子供がいるということから、5歳児までを例にすると、小学校に上がるまでの5年間で約1,000人の子供がいらっしゃるということで、1億円を単純に1,000人で割り算をすると1人10万円となります。例えば保育料の無償化をやめて、児童手当のように均等に子育て世代というか、未就学児に対して均等に1人10万円ずつ配るとするのは、金額面だけからいくとバランスのとれたというふうに見えるんですけど、そのあたり、そういう施策というのは考えられませんか。

健康福祉部長（山田正人君） 1億円の影響額があるんなら、10万円を対象者に配るということでございますか。現在では、そういうことは考えておりません。

委員（西村慎次郎君） 一つの案で、金額面でいうバランスという意味では、そういうことも検討の余地もあるというか、考えられるかなというところで提案させていただきました。

〈なし〉

〈井原市における生活困窮者等支援について〉

委員（三輪順治君） けさのローカル紙のほうで、市町村の窓口一本化。対象者は、中高年ひきこもり、あわせて介護困窮世帯。具体例が各紙に載っておりまして、国もようやく現在の社会問題の大きな背景になっております根本的な分野に目を向け、必要な施策を打っていくものでございます。きょう、こういう形で井原市における取り組みの現状をお聞かせい

いただきました。推計数字も出していただきまして、恐縮でございます。しかし、あくまでこれは推計でございますので、地道にそういった対象者の把握に努め、かつ横の連携や専門家との協議を含め、いろんな結果としてあらわれる聞きたくないようなニュース、新聞の記事などにならないような対応をお願いしておきたいと思います。

先ほどの新聞情報の中で言われておりましたが、早ければ2021年度ぐらいから具体的な支援が始まるということでありますけれども、恐らく先立って準備しなければならないことがあると思います。国のほうで何らかの形で段階的に行ってくると思いますけれども、手順を踏みながらやっていただきたいと思います。

気をつけなきゃいけないのは、あれはあそこに任せとけばいいというような話じゃなくて、市役所の中も連携を十分して、今ひきこもり相談支援センターというのが社会福祉協議会の中にあるとおっしゃったのは、大変いいことだと思いますので、できれば井原市の中にも担当業務にこだわらない窓口、それは住民サービスのワンストップと同じように、介護や福祉、それから病気や子育てを含め、複合的な家族問題が今地区に物すごくあると思います。それは、縦割りで対応するのも仕方ないんですけど、しかし実際は、家庭を維持する、あるいはそこで生活するということは、そういうように縦には切れないんです。どうしても横の連携や、そういったつながりがある中でやってますので、市役所の方も大変なんですけれども、きょうこういうテーマで所管事務調査をやらせていただいたのは、現状の把握、そしてこれから先の見通しを含めて気を引き締めて、市役所を含め関係機関ともども一層の働きをお願いしたいという点でやっておりますので、私からはあえての質問はしませんが、よろしくをお願いしたいと思います。

委員（藤原浩司君） ②の「ひきこもり支援について」なんですが、おおよその数字は言われたんですけど、社会福祉協議会のほうで、そういう事例というか、かわりを持って更正していただいたという経緯はございますか。

健康福祉部参事（原田恒司君） 専門相談の先生によりまして、平成29年6月から月1回の相談を受けておりまして、平成29年度は15件、平成30年度は27件、ことしに入りましては11月末までで26件、延べの数ですが相談を受けておりまして、必要に応じて保健センターへ紹介したり、病院受診を勧めたりといったようなことで対応いたしているところでございます。

委員（藤原浩司君） 保健センターとかを紹介して、そういう対応をしているっていうのは、中継ぎのような形であって、実際は専門相談員とかがおられる中で、次のステップというか、次のそういう施設につなぐということじゃなくて、井原市の中で解決したということは、事例がないという認識でよろしいですか。

健康福祉部参事（原田恒司君） 引き続きおいでになられてる方はいらっしゃいますが、解決に至るまでのところの方はいらっしゃらないという状況でございます。

委員（藤原浩司君） じゃあ、解決に至らない方は、このままずっと引きずって解決はしないでいらっしゃるんですか。それとも、解決に向けて何かの策はございますか。

健康福祉部参事（原田恒司君） 今行っております月1回の専門相談員の先生のところへ、ひきこもりの方もいろいろな方が大勢いらっしゃいまして、それぞれのケースに応じたような対応をとっていくということで、おいでになれるお母さんとかご家族に対して、ひきこもり状態になってるお子さんに適切なアドバイスをしていただくという対応を勧めているという状況でございます。

委員（藤原浩司君） それをしても結果が出ないというぐらい難しいということですね。そういう認識でいいんですね。

私も実際にひきこもりの、20代の初めのころの若い男性とかかわりを持ったことがございまして、何らかのきっかけでその扉が開いたんです。その何らかのきっかけをつかむのがなかなか難しいんだろうとは思いますが、人間、健常者であっても心を開いて話ができる人と、心を開いて話ができないという人がいらっしゃると思うんですけど、自分の感情のもとでの好き嫌いもあるので、いろんな方と面談をしていただいて、何かのきっかけで外に出るようになると、ちゃんと就職までできるんです。私の知ってる男性は、一声のかけ方がすごくよかったみたいで、今就職に至って、真面目にその仕事で生活されておられますので、難しい問題だとは思いますが、社会福祉協議会に全部投げっ放しのような形に私には見えるんですけど、でもせっかくひきこもり相談支援センターを開いていただいて、そういう対応をしていただいているので、そういう大きく、広い心で、包み込むような形でその方の心を開くような努力をしていって、それこそ社会に適応した即戦力の一員として頑張っていたきたいんで、その辺を強固に頑張っていたきたいと思います。答弁は結構です。よろしくをお願いします。

〈なし〉

委員長（簀戸利昭君） ここで執行部の方にはご退席願いたいと思います。何かございましたらお願いいたします。

副市長（猪原慎太郎君） 閉会に当たりまして一言お礼を申し上げます。

委員の皆様には、長時間にわたりまして熱心にかつ慎重にご審議をいただきまして、まことにありがとうございました。また、適切なご決定をいただきまして、大変ありがたく思っ

ております。また、さまざまな角度からいろんな活発な議論をいただいたと思っております。

今議会を通じまして皆様からいただいておりますさまざまなご意見、ご要望につきましては、今後の市政に反映をしていきたいと思っております。本日は大変お世話になりました。ありがとうございました。

委員長（簀戸利昭君） 執行部の皆さんには大変ご苦労さまでした。

〈執行部退席〉

委員長（簀戸利昭君） 所管事務調査事項の1番目が市民病院の現状と課題について、2番目がバランスのとれた子育て支援について、3番目に井原市における生活困窮者等支援についてを協議いたします。

これらの所管事務調査事項の今後の進め方について委員の皆さんにご協議をいただきたいと思います。

委員の皆様のご意見を求めます。どなたからでも結構ですが、今後、所管事務として続けるか否かというような話になろうかとは思いますが。

委員（西村慎次郎君） どのテーマも、今後も注視をしていく必要はあるかなというのは思うんですが、継続して何をするかっていうところは、特に今すぐには浮かばないんで、今後の動向を見ながら、必要に応じてまた所管事務調査に上げていくという形で、一旦は終了でもいいかなというふうに思います。

委員長（簀戸利昭君） このたびは、経過を見るということで、たちまちの所管事務調査事項としては取り上げないというご意見だったろうと思いますが、それでよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（簀戸利昭君） それでは、以上でこちらからは特にございません。委員の皆さんから何かございましたらお願いします。

〈なし〉

〈議長あいさつ〉

委員長（簗戸利昭君） 以上で市民福祉委員会を閉会いたします。